

シシムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2020. 10. 23

No. 8



座席の間隔を空けて着席する聴講者（2020. 9. 11 札幌大学ウレシパクラブ）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、不要不急の外出自粛を控えて3密（密集、密閉、密接）を回避するなど、感染拡大の抑え込みが各施設で図られていますが、未だに収束のめどが立たない状況が続いています。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館および沙流川歴史館は、公益財団法人日本博物館協会が策定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や、北海道が独自に展開している「新北海道スタイル」を取り入れています。感染拡大予防策として、館内では清掃・消毒・換気を徹底し、入口にはサーモカメラを設置し体温の測定を行っています。また、来館者の皆さまには、マスクの着用、咳エチケット、手洗い・手指の消毒の徹底、健康状態による来館自粛を呼びかけています。

安心してご利用いただくため、ご不便をお掛けすることとなりますが、何とぞご理解・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

（本田卓也）



サーモカメラ

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 第26回特別展

沙流川流域のウウエペケレ

11/29(日)
まで開催

現在開催中の第26回特別展のみどころは大型スクリーンを用いたウウエペケレ(散文説話)の映像資料です。1997～2003年に平取町在住の古老から収録したお話と、古老の遺志を受け継いでアイヌ文化伝承活動に励んでいる息子さんへのインタビューを上映しています。また、お話をまとめた「アイヌの昔話集」(2001)に掲載されているイラストを物語形式のパネルでご紹介しています。沙流川流域に伝えられてきたアイヌの物語世界をお楽しみください。(廣岡絵美)



「アイヌの昔話集」(2001)より
絵：はまおかのりこ

特別展関連講座「沙流川流域のウウエペケレ」

講師：千葉大学教授 中川裕氏

会場：沙流川歴史館レクチャーホール

日時：11月14日(土) 14:00～16:00

定員：先着100名(申込必須、参加無料)

申込先：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

☎01457-2-2892

沙流川歴史館特別展

知ってみよう！
やってみよう！

はじめての考古学

11/29(日)
まで開催

沙流川歴史館では、現在【特別展】を開催しています。「考古学ってなんだろう？」という疑問をスタートに、大昔の人たちの暮らしの様子や遺跡はどのように遺されていくかなど、考古学の基本を小中学生から大人までを対象にわかりやすく解説しています。考古学の入門として、ぜひ学びに来てください。

また、特別展の関連事業として、11月1日(日)に沙流川歴史館講座『平取町内の発掘調査でわかったこと、伝え遺したいこと』を開催します。当館の森岡健治館長が、これまで町内遺跡20カ所の発掘調査に関わってきた経験をお話しします。こちらもぜひご参加ください。(佐々木知代)

沙流川歴史館講座

「平取町内の発掘作業でわかったこと、伝え遺したいこと」

講師：文化財課長・沙流川歴史館館長 森岡健治

会場：沙流川歴史館レクチャーホール

日時：11月1日(日) 13:30～15:00

定員：先着100名(申込必須、参加無料)

申込先：沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

沙流川歴史館
Historical Museum of the Sorachi River

令和2年度特別展

「考古学ってなに？」
子どもから大人まで
見て・体験して
知ってみよう！

知ってみよう！
やってみよう！
はじめての
考古学

2020年10月1日(休)～11月29日(日)

場所：沙流川歴史館

沙流川歴史館講座「平取町内の発掘調査でわかったこと、伝え遺したいこと」
日時：11月1日(日) 13:30～15:00
会場：沙流川歴史館レクチャーホール
講師：森岡健治(平取町教育委員会文化財課長・沙流川歴史館館長)
定員：100名 ※要事前申込、9月25日(金)から電話受付開始

沙流川歴史館大規模改修工事 ②

前号に引き続き、沙流川歴史館大規模改修工事の進捗状況をお知らせします。

外構工事は、外壁が劣化しているところの調査が行われ、補修工事を行うための足場が組まれました。また、屋根上の雨漏りを防ぐ工事が完了したので、一度撤去されていた土壌・砂利が戻されました。新しい芝の吹き付けは積雪前に行われる予定です。内部工事は、事務室内の窓取り付け作業が完了したので、エントランスホール・事務室内に設置されていた間仕切りは撤去されました。

館内レクチャーホールの音響機器や空調設備の更新工事は 12 月から、展示室の照明機器や空調設備などの更新工事は年明けから行われることになりました。それにともない、2020 年 12 月 30 日からの年末年始休館以降しばらくの間、臨時休館となります。

2020 年 12 月 29 日までは開館しているので館内の見学は可能です。作業音が館内に響くことがあり、大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。(本田卓也)



屋根上防水シート施工作業



土壌・砂利搬入作業



外壁調査の様子



足場が組まれた展望ギャラリー



新たに取り付けられた事務室内窓



屋外から見た事務室内窓

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 8—

沙流川流域の産業景観（沙流川区域：自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織り成す多文化な河川景観）

沙流頭首工^{さ りゅうとうしゅこう}は沙流川中～下流域における農業用水の供給施設です。近代以降、沙流川下流域で米づくりが盛んになっていき、かんがい用水をしっかりと整備する機運が高まっていきました。沙流頭首工はそうした地域の大きな要請に応える形で 1915（大正 4）年に作られました。沙流川流域の水田耕作は、1876（明治 9）年にエシヨロカン沢（現日高町平賀）で稲作が成功したことに端を発します。造田熱^{ぞうでんねつ}は 1913（大正 2）年の土功組合^{どこう}の設立に繋がり、1916（大正 5）年には、かんがい溝（水路）を用いた水田が飛躍的に発展します。沙流頭首工からのかんがい溝は 15km あり、途中の小沢から流入する水も計算され、河口に行くと幅が狭くなります。水の管理は 4 月下旬から 10 月の稲に実が入るまで必要で、天候次第で水量を調整します。1970（昭和 45）年になると米の過剰生産による生産調整が行なわれ、トマト栽培が開始されるようになります。

1997（平成 9）年には二風谷ダムから頭首工まで導水管が敷設され、新たな通水が始まりました。地域の低平地には自然流下方式の頭首工と、電力と揚水機^{ようすいき}の取水施設^{しゅすい} 10 カ所があり、各取水施設の近くには水神^{まつ}が祀られ、例年通水時に安全と豊作が祈願されています。（長田佳宏）



沙流頭首工（北西から）。二風谷ダムの完成にともないその役割を終え、現在は頭首工のみが保存されている。



視点場からは沙流頭首工と合わせ、チブサンケの舟着場やアイヌ伝承地のベンケ・バンケトコムなど、多様な景観を眺望できる。



かんがい溝と水田、トマト栽培のビニールハウス（平取町本町：西から）。 ※この場所は重要文化的景観ではありません。

アイヌ語を覚えてみよう ⑧

イランカラテ！（こんにちは！）

今回は、日常使える簡単なアイヌ語あいさつ言葉をいくつか紹介します。

1. 「イランカラテ」 こんにちは

元々は、形式ばった出会いの場面で、男の人だけが使った言葉だといわれていますが、現在はカジュアルに、どんな時にでも一般的に広く使われる言葉になってきています。

「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」どの状況でもこの言葉でOKです。

2. 「イワンケノ エアン ヤ？」 元気ですか？

（イワンケノ・元気に エアン・あなた、いる ヤ？・～ですか？）

平取町二風谷アイヌ語教室子どもの部の授業始めには、いつもこの言葉で全員から一人ひとりに尋ねるようにしています。

3. 「イワンケノ カン ワ」 元気です

（イワンケノ・元気に カン・わたし、いる ワ・～よ）

イワンケノ エアン ヤ？ という問いかけに対する返答として使えます。

4. 「イヤイライケレ」 ありがとう

感謝をあらわす言葉です。

5. 「スイ ウヌカラン ロー」 またお会いしましょう

（スイ・また ウヌカラン・お互いに会う、わたしたち ロー・～しましょう）

別れの場面で使える表現です。

6. 「アプンノ パイエ ヤン」 お気をつけて

（アプンノ・穏やかに パイエ・行く ヤン・～してください）

残る人が去る人に言う言葉です。

7. 「アプンノ オカ ヤン」 お達者で

（アプンノ・穏やかに オカ・いる ヤン・～してください）

去る人が残る人に言う言葉です。



まずは、これらの言葉を普段から使うようにして、すこしずつアイヌ語会話に挑戦してみたいかがでしょうか。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

エディース・メアリー・ブライアント

看護師・イギリス聖公会の宣教師

エディース・メアリー・ブライアント (Edith Mary Bryant, 1857 - 1934) は、1898 (明治 31) 年、イギリス聖公会の宣教師として平取へ赴任します。自らの病氣療養や長期休暇などで平取を離れた期間もありましたが、1921 (大正 10) 年 11 月まで、キリスト教の布教活動を同僚たちとともに続けました。



エディース・メアリー・ブライアント
(平取聖公会宣教百三十周年記念誌より)

ブライアントはオーストラリア出身です。イギリスで看護師としての経験を積み、1896 (明治 29) 年、イギリス聖公会の宣教師になります。ちょうど同じ 1896 年、すでに 1879 (明治 12) 年から平取を中心に北海道各地でキリスト教の布教活動をしていたイギリス聖公会の宣教師ジョン・バチェラー (John Batchelor, 1854 - 1944) が、イギリス聖公会の本部に女性の宣教師の派遣を要請しました。これをきっかけにして、ブライアントはイギリス聖公会によって平取へ派遣されました。
＜ブライアントと明治 31 年大洪水＞

ブライアントが平取に赴任した 1898 (明治 31) 年、北海道の広い範囲で 7 月と 9 月に大きな水害がおきました。特に 9 月は、北海道に大きな被害をもたらした台風により、沙流川でも大洪水が発生しました。その被害は沙流郡の溺死者数 29 名、流失家屋 68 棟、浸水家屋 143 棟に及んだといわれています。1898 年 10 月付でブライアントが書いたイギリス聖公会本部への年次報告便りによれば、8～9 月、そして 10 月の一時期は住民を訪問する布教活動は全くできず、そのかわり、行く先々で薬を求められたことが記されています。

また、ブライアントが訪問することができた被災場所は限られているものの、全ての被災場所において多くの人々に適切な看護、食べ物、そして薬が必要であるにもかかわらず、人々はそれらを手に入れられないこと、また、人々はお金が底をつけば医者からの薬も手に入れられない、とも記されています。このような状況のなか、ブライアントは自分にできることはできる限りやり続け、励ましに行くというささやかな行為でさえも被災者の助けになったと思う、と述べています。

(田中真澄)

引用・参考文献

○Church Missionary Society, 1899, Extracts from the annual letters of the missionaries for the year 1898, London, Church Missionary House, pp.368-369

●Church Missionary Society, Register of missionaries (Clerical, lay, and female), and native clergy from 1804 to 1904, p. 435

○平取聖公会宣教百三十周年記念誌 主に愛されて生きる、2009 年、日本聖公会北海道教区平取聖公会発行



開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その8：民具の調査

謎の道具！？

番外編

旧荷負小学校展示施設



- A 商業・生活
- C 学校
- D 地域の記憶
- E いろいろな道具たち
- G 林業・馬具
- I 収穫（秋）
- J 畑・稲作（春）
- K 家での暮らし
- L 壁面展示（—展示箇所）

B・F・H 関係者専用

町民の方から、自宅作業場に使い方がわからない昔の道具があるので調べてほしいとのお問い合わせがありました。書籍やインターネットで調べてみましたが、使い方や名前もわからず困っていました。フェイスブックを活用して多くの人に聞いてもらったところ、ウナギ搔きという道具であることが判明しました。

【ウナギ搔き】

水底のウナギを捕える道具。長い柄の先に鉤（カギ）をつけたもの。船上用と徒歩用の2種類あり、柄の長さや鎌の角度が異なる。



実際にお問い合わせのあったウナギ搔き

二風谷在住の方にお話を聞きました

昭和の終わり、堰堤にはよく魚が見え、その中にはヤツメウナギもいた。ウナギ搔きではなく、軍手をして手で捕まえると腕に巻きついてきた。



ヤツメウナギって？

ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科というもので、ウナギの仲間ではない。エラが片側に7つあり、本当の目と合わせて8つ目があるように見える。外見はウナギそっくりで、長さは50～60cm。ヤツメウナギのうちポピュラーなのはカワヤツメと呼ばれる。



【アイヌ語】

puyapuya-cheppo

（プヤプヤチェッポ・ブワブワした魚）

【日本語】

やつめ、カワヤツメ《沙流ほか》

知里真志保 1963『分類アイヌ語辞典動物編』より

〈アイヌの伝承におけるヤツメウナギ〉

昔、文化神がやまで熊を獲って、木皮舟に積んで石狩川をくだって来たところ、ここで舟をひっくり返して、熊の肉と一緒に積んでいた熊の腸も流してしまったが、ヤツメになったのだ。それでカムイコタンにはヤツメが多く、またヤツメには骨がないのだ。更科源蔵 1981『アイヌ伝説集』より



見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日（祝日休館）9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せください。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085



平取町内
小学4年生
が見学に
来てくれ
ました！



道路沿いに
看板がで
きました！

（廣岡絵美）
（小林斉子）

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展

『沙流川流域のウエペケレ』

期間：11月29日（日）まで

場所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

休館日：11月16日・23日

■博物館特別展関連講座 ※要事前申込

期日：11月14日（土）14:00～16:00

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

■休館日のお知らせ

冬期間（11月16日～4月15日）は、毎週月曜日が定期休館日になります。

また、12月16日～1月15日の1ヶ月間は、館内整備のため休館します。

編集後記

国の指示により配布を休止しているダムカードですが、11月1日から配布を再開することが決まりました。特別展の見学とあわせてご来館ください。（本田卓也）

沙流川歴史館

■特別展

『知ってみよう！やってみよう！

はじめての考古学』

期間：11月29日（日）まで

場所：沙流川歴史館エントランスホール

休館日：10月26日

11月2日・9日・16日・24日

■歴史館講座 ※要事前申込

期日：11月1日（日）13:30～15:00

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

講師：森岡健治（沙流川歴史館館長）

■臨時休館のお知らせ

館内の改修工事にともない、2020年12月30日からの年末年始休館以降しばらくの間、臨時休館となります。

期間は3月末までを予定していますが、再開日のお知らせなどは、次号のシシリムカ文化財だより・歴史館Instagram・町HPでお知らせします。

2020年10月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

博物館・歴史館 特別展

2020年11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

博物館・歴史館 休館日

2020年12月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

博物館 休館日

2021年1月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

歴史館 休館日

シシリムカ文化財だより No.8

2020年10月23日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

